

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 074	提案機関名 平塚市漁業協同組合
要望問題名 平塚地先のハマグリ放流適地調査について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 平塚では、50年前には定常的にハマグリ漁獲があったが、近年は数個程度姿を見るものの出荷するほどに至らない状況である。ハマグリ資源回復に向けて少量ではあるが2012年から稚貝の放流を行ってきた。またここ数年は（公財）相模湾水産振興事業団より支援を受け放流量を増やし取組を行ってきた。 平成30年2月～4月に実施した海底耕耘事業では、藤沢市漁協より貝桁を借り調査を行ったところ、約15Kgのハマグリを確認することができた。藤沢市漁協では、種苗放流が実を結び、ハマグリ資源が復活しかながわブランドの認定を受けていると聴いている。 ハマグリ生態について、特に2歳未満の小さい稚貝時がデリケートで、底質環境、特に浜の砂の質が生き残りに大きく影響するという知見がある。これは、目合いの細かい砂でないと、稚貝が砂に潜ることができないためとのことである。 そこで、平塚地先の砂の底質を調査すると共に、ハマグリ放流に適した適地をご指導いただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	相模湾試験場（普及指導担当）
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	一般的にハマグリ（チョウセンハマグリ）は汀線～水深5mを中心とした潮下帯の中粒度から細粒度の砂底に生息するといわれています。平塚市においても藤沢市のように、チョウセンハマグリ生息環境として適切な条件が整っている海域を特定することができれば、より効率的にその増養殖を行うことは可能であると考えます。 適切な生息環境が整っている場所を特定するために、成員の分布調査を沖合で、稚貝の分布調査を地先の砂浜で行うことが必要です。これらの調査方法および結果の分析方法についての技術的指導を行ってまいります。また、底質については現場が行っている調査において、成員の生息水深である5mの調査地点を増やすことで対応してまいります。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			